

THINKのあとのTHAT構文について*

名 本 幹 雄

On *THAT*-CLAUSE after “*THINK*”

By

Mikio NAMOTO

The purpose of this paper is to analyze the properties of “*that*-clause” after *THINK* in the surface structure. On the clause there are the two typical views: one of them is P.S. Rosenbaum’s, the other is F. Nakashima’s. The former asserts the clause is generated from Noun Phrase Complementation in the underlying structure, while the latter asserts it is from Verb Phrase Complementation in the terminology of Rosenbaum (1967).

The writer, in this paper, seeks to find the reason why the two inconsistent views occur. It seems to the writer that the reason consists in misunderstanding the underlying structure of *THINK*. According to the writer’s views, the underlying structure is Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation. Some evidences are presented in support of his views in this paper.

It is, moreover, pointed out that both “*that*-clause” after certain adjectives such as afraid, confident, glad, etc., and “*that*-clause” after certain verbs such as complain, rejoice, etc., seem to have the same properties as that after *THINK*.

1. は じ め に

THINK のあとの *that*-clause の解釈については両極端を示すものとして、P. S. Rosenbaum と中島文雄両氏の二説がある。本稿においてはこの両者の考え方を検討し、筆者自身の解釈を示すものである。

Rosenbaum によれば動詞 *think* は Object Noun Phrase Complementation を構成するものであるが¹⁾、中島文雄氏はその基底文において Unspecified *it* を考慮し²⁾、この *it* を受ける *that*-clause は副詞的機

* 水産大学校研究業績 第659号, 1972年1月24日 受理。
Contribution from the Shimonoseki University of Fisheries, No. 659.
Received Jan. 24, 1972.

1) Rosenbaum, P.S., 1967: *The Grammar of English Predicate Complement Constructions*, The M.I.T. Press, Mass.

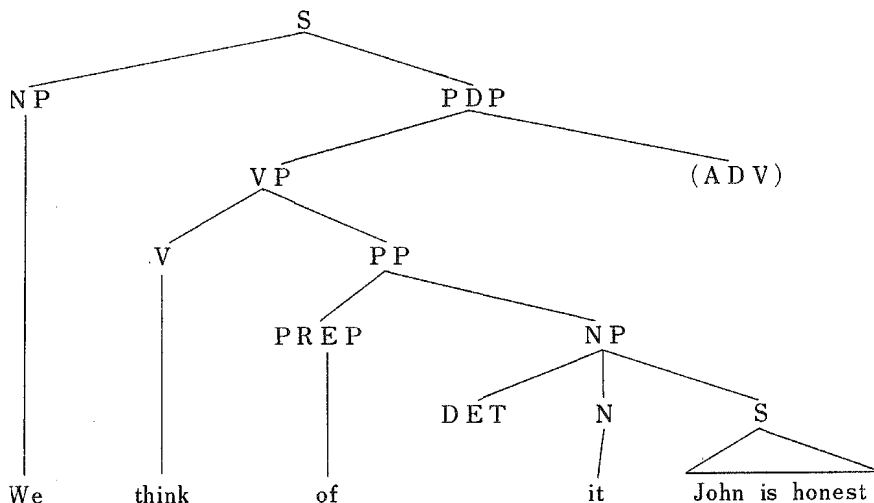
2) 中島文雄, 1968: “基底文における Unspecified *it*”. 英語青年, Vol. CXIV, No. 6. PP.378-380.

能を果す Complement と解釈する。この *that* は本来 Nominalizer であるが、この場合は名詞の副詞的用法と解釈する³⁾。

2. THINK のあとの *that*-clause の深層構造について

筆者は Rosenbaum, 中島文雄両氏と異なる次のような深層構造を考えたい。Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation である。

Sentence We think that John is honest.



Rosenbaum の言うごとく Object Noun Phrase Complementation と考えれば、中島氏の指摘するように次の Passive Voice が不可能であることの説明がつかない。

* That John is honest is thought.

中島氏は次のような深層構造を考える。

We think [it]_{NP} [John is honest]_S

ただしこの NP は Unspecified *it* であると解釈する。そしてこの Unspecified *it* をとる S は *that*-complementizer をとって副詞的 Complement となるので Passive Voice の主語にはなれないのであるという。しかし次の文は成立するのである。

That John is honest is thought of.

もしこの *that*-clause が本質的に副詞的 Complement であれば当然この文も成立しないことになる。しかし筆者の考える深層構造 Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation より生成されたものと考えれば成立することになる。

3) 中島文雄, 1968: "I made John go の構造". 英語青年, Vol. CXIV, No. 5. PP. 290-292.

We think [PREP [[it]_N [John is honest]_{SNPPP}]]

つまり深層構造にあつては、John is honest はやはり NP Complement と考える。表層構造は Complementizer Placement Transformation, Preposition Deletion Transformation, Passive Transformation, Extraposition Transformation などが適宜働いてできたものと考ええる。

中島氏自身もこの that は Nominalizer であると認めている。しかしこの *that*-clause が BASE にあつては前置詞 of を持つ Prepositional Phrase であることを無視して Passive Voice の主語におこうとするので無理が生ずると解したい。つまり表層構造におけるこの *that*-clause は BASE の Prepositional Phrase の代表と考える時、この *that*-clause が副詞的なものと感じられるのは当然と言える。

THINK のあとの *that*-clause 検討

3. 1 研究社『新英和中辞典』⁴⁾, *so* の副詞的用法 5 の項に [代名詞的に] [動詞 say, tell, think, hope, expect, suppose, believe, fear, hear などの目的語として] 使用されると説明されている。

I think *so*.

I suppose *so*. = *So* I suppose.

I told you *so*.

また【語法】の項に次の説明がある。

“*so* は *adv.* 5 a の用法ではしばしば目的語としての *that* 節を代表する；この用法の *so* に対応する否定形は *not* (cf. NOT 5):”

The war will soon end. —I hope *so* (=that it will) [I'm afraid *not* (=that it won't)]

研究社『英文法シリーズ』第4巻「代名詞」には、*so* について次のような説明がある⁵⁾。

“語原的には *so* (<OE. *swā*) は ‘*so, thus*’ を意味する副詞である。

(1) 代名詞としての用法

(a) 動詞 say, speak, tell, think, hope, expect, suppose, imagine, fear, hear, etc. の目的語として たとえば Is he going? に対して, He says *so* / I think *so* のように用いられるもので、いずれの場合にも *so* は that he is going という節の代用をしている。しかし He said she must go, and he said *it* with a peculiar look of determination in his eyes. —[Curme] の場合には, he said *so* よりむしろ *it* (ときには *this, that*) が使われる。こうした場合の *so* と *it* (ときには *this, that*) との区別は微妙であるが、*so* は単に既述の文全体の繰り返しを避けるために漠然と用いられる (従って、意味上の重点は前の動詞にあり, He says *so* / I think *so* となる)。これに対して *it* (特に *this, that*) は、*so* の場合よりも更に明瞭に前の (文全体というよりも) 語句を受けている感じを与える (Cf. Curme, *Accidence* P. 9 ; Kruisinga, *Handbook* §1159)。

4) 岩崎民平・小稻義男, 1971: 新英和中辞典. 第三版. 研究社. 東京.

5) 江川泰一郎, 昭和32年: 『英文法シリーズ』第四巻「代名詞」. P. 74. 研究社. 東京.

6) Kruisinga, E., 1932: *A Handbook of Present-day English. Pt. II.* Groningen (Noordhoff). PP. 233-234.

Kruisinga の *Handbook* には次のように書いてある⁶⁾。

“The use of *it* here is preferable because it refers more definitely to the very words of the preceding sentence ; whereas *so* would refer to the sentences as a whole.

すなわち *so* は本来語原的には副詞であるが用法上は代名詞または代名詞的で目的語と考える学者もいるということである。また *that*-clause を受けるものが常に *so* とは限らず、*it* の場合もあるということに注目したい。特に *it* が the very words of the preceding sentence を指すということ、*so* が語原的には副詞であり、the sentence as a whole を指すということは、この *that*-clause の性格をよく表わすものではなからうか。深層構造においては THINK に対してこの *that*-clause は前置詞 *of* と合体して副詞的機能を果す Prepositional Phrase を構成する。この深層構造が表層構造においては、その Prepositional Phrase を構成する前置詞が落ち一見接続詞 *that* に導かれる名詞節の感じをあたえるが、潜在的には副詞的機能を果す Prepositional Phrase と考慮すべきものなのである。このように考えてくると本質的には副詞であるが代名詞的用法と考えられる *so* がこの *that*-clause を受けるのに使用されることは、このような *that*-clause の性質をかなりよくものがたるものではなからうか。さらに *so* のみでなく、the very words of the preceding sentence を指すと言われる *it* で受ける場合のあることは、Noun Phrase Complement の存在を示唆するものと解したい。したがって *that*-clause を *it* で受けず *so* で受けるという理由から中島氏の言うごとく、Unspecified *it* の存在およびそれにとまなう副詞的 Complement の存在を考慮することは疑問視せざるを得ない。

3.2 ここで A.S.Hornby が Verb Pattern 24B にあげている動詞を考えてみることにする。Hornby は次のように言う⁷⁾。

“Some intransitive verbs of the class used in VP 24 may be used with *that*-clauses. The preposition is omitted (so that, so for as word order is concerned, the pattern resembles VP 11 for transitive verbs). If the preposition is retained, preparatory *it* also occurs.”

You may depend (upon it) that every member of the committee will support your proposal.

He insisted (upon it) that he was innocent.

これらの文が示すごとく動詞 *depend*, *insist* は Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation を構成するものである。

Hornby は THINK を Verb Pattern 4 または 11 をとる動詞として次のように言う⁸⁾。

“Verbs used in this pattern are chiefly verbs that indicate an opinion, judgement, belief, supposition, declaration, or a mental (not a physical) perception. The pattern is typical of formal style. In formal style it is more usual to have a dependent clause after the verb, as in VP 11.”

しかし深層構造に前置詞 *of* をおく筆者の考えでは、THINK は VP 24B に分類されるのが適当となる。VP 24B に属する動詞としてさらに、*rejoice*, *complain* がある。これらの動詞は細江逸記博士がその英

7) Hornby, A.S., 岩崎民平註訳, 昭和35年: *A GUIDE TO PATTERNS & USAGE IN ENGLISH*, 研究社, 東京. P. 76.

8) *Ibid.*, P. 22.

文法論において副詞的名詞文句をとるものとしてあげている動詞である⁹⁾。

I rejoice that you are not unjust.

He complained that he had been cruelly used.

これらの動詞も Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation を構成するものと考えられる。深層構造において、rejoice の場合は at, Complain の場合は of が存在する Prepositional Phrase を考えれば、これらの that-clause が副詞的機能を果していると感じられる理由が納得できる。

3.3 さらに細江博士がこの種の副詞的名詞文句は形容詞に続く場合に殊に多いとして次の例文をあげている。

I am afraid that you will not succeed.

I am glad you've come.

I am confident it would have sensibly touched him.

しかし Kruisinga (*Handbook* §§ 1968, 2255), Zandvoort (*Handbook* §§ 646, 647) はこの構造を名詞節と解釈している。Jespersen (*M. E. G. V.* §§ 21, 84) は Tertiaries すなわち副詞節と解釈する。このような混乱も深層構造において、動詞、形容詞は同じ種類の構成要素と考えられるので、THINK の場合と同様 Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation を構成するものとすれば説明がつくものである。

3.4 次に THINK+that-clause と be afraid+that-clause の類似性を考えてみたい。研究社『新英和中辞典』afraid 3 の項に次の説明がある。

“『口語』 [+that 罫] [語気を和らげるのに用いて] . . . (である) ことを残念に思う, . . . と思う: I'm~ (=I'm sorry) I cannot help you. (この用法では that が省かれるのが普通) Is it true?—I'm~so [I'm~not]. ”

ここに be afraid+that-clause と THINK+that-clause のいくつかの類似点を見出す。すなわち意味の類似性、接続詞 that の省略、that-clause の so, not での置換等がそれである。このような意味および表層構造の類似性は THINK と当然同一の深層構造つまり Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation を想定する有力な evidence と言えよう。

3.5 つぎに That John is honest is thought. は成立しないが、It is thought that John is honest. が成立するのはどのように解釈するかという問題がある。これは変形生成過程において Passive Transformation のあとに Extraposition Transformation がほどこされると、It is thought of that John is honest. ができる。この of が Obligatorily に Deletion されたものと解したい。しかし that John is honest is thought of の that-clause は事実節であるが、It is thought that John is honest. の that-clause は非事実節ではないかという疑問が残る。これは今後の課題としたい。

9) 細江逸記, 昭和46年: 『英文法汎論』, 篠崎書林, 東京. PP: 301-302.

4. 結 語

THINK のあとの *that*-clause は一般には名詞節と考えられているが、中島氏がこれは副詞的機能を果すものであると主張された。それには深層構造において *Unspecified it* の存在を提唱される訳であるが、筆者は中島氏と異なった深層構造を考え *Unspecified it* の存在を疑問視するものである。ただこの *that*-clause が副詞的機能を表層構造において果していると考えることにおいては意見を同じくするものである。したがって Hornby 流の分類に従えば THINK は VP4 ないし11ではなくて VP24B に属するものと考えたい。また *afraid, aware, confident* 等に続く *that*-clause には副詞節、名詞節と二通りの混乱した解釈がある。これについても THINK と同様の深層構造、*Intransitive Oblique Noun Phrase Complementation* を考えれば説明がつくと考える。

終りに親切な助言を賜った九州大学文学部大江三郎助教授に厚く感謝いたします。

(1972年1月)